6-22　実践協力校における実践
事例㉒　横須賀市立長沢中学校（全学年・特別活動）
～「校則の見直し」を通して自分の考えを再構築する～

ポイントになる主な学びのプロセス

- **他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する**
- **課題について多面的･多角的に考える**
- **主体的に社会に参画する**

Ⅰ　学校全体における取組

学校教育目標　「命一杯に生きる」　～向上心　貢献心　自立心～　「幸せに生きるための土台作り」

目指す生徒像　「深く考え行動する生徒」

横須賀市立長沢中学校では、学校教育目標の実現に向けて、生徒の主体性を育む取組を、今年度年間を通して学校全体で行った。長沢中学校の生徒は、今ある髪型、服装、装身具などの校則に対して、ルールを守っていてもどうしてそのルールがあるのか疑問をもたなかったり、疑問があってもルールを変えられるとは思っていなかったりする現状があった。

そこで、生徒が主体となって校則の見直しを行う中で、他者の考えを尊重しながら、自分の考えを再構築するプロセスを繰り返したり、自らの思いを表に出せる機会をつくったりすることで、生徒がルールの意味を考えたり、学校のことを自分のこととして考えることにつながると考えた。

実践にあたっては、生徒会役員が主導する一連の活動を教員が支援しながら進めていった。全校生徒の思いを聞くところからスタートし、個人で考える機会や班で考える機会も大切にしながら、学級での話し合い、生徒総会で全校生徒が一堂に会して話し合う機会も意図的に設定し、意見を再構築させながら議論を深めていった。



Ⅱ　学校全体における授業実践「特別活動」

○　目標

・ルールメイキングを通して、主体的に課題解決する力を育てる。

・他者と関わりながら、自分の意見を再構築する力を育てる。

○　生徒の活動

ポイント1

4月

現行の校則を６人班で見直し、違和感のある校則について生徒一人ひとりが意見をもつ

学級活動 1

⇒他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する

⇒課題について多面的･多角的に考える

生徒会役員と中央委員会の委員が、全校生徒から集まった多くの意見を取捨選択して５つにまとめる

①髪型　②防寒着　③靴下の色　④休み時間の過ごし方　⑤スマートフォン

生徒会活動 1

5月

５つの意見について各学級で話し合い、他者の意見を聞きながら、生徒一人ひとりが意見をもつ

学級活動 2

⇒他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する

⇒課題について多面的･多角的に考える

各学級で話し合った５つの柱について、生徒会役員と中央委員会が、協議して、生徒総会の議題を３つに整理する　①靴下の色　②休み時間の過ごし方　③髪型

生徒会活動 2

３つの議題について、生徒総会を行い、各学級や他者の意見を聞き、生徒一人ひとりが意見をもつ

生徒総会 1

⇒他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する

⇒主体的に社会に参画する

6月

生徒会役員が、全校生徒の意見を確認して、協議する。①靴下の色と②休み時間の過ごし方について、試行期間を設けて、検証することを全校生徒に伝える

生徒会活動 3

本時 ①

7月

試　行　期　間

8月

生徒会活動 4

生徒会役員を対象とした「リーダースキャンプ」に参加

・講師から生徒会役員に向けて、心構えやアドバイス等を含めた講話

・長沢中の「校則見直し」の取組について各中学校へ周知

9月

試行期間を経て、集計したアンケート（生徒・保護者）を基にして、校則を見直す意味や、みんなが納得する方策について考える

学級活動 3

⇒他者と連携･協働し、相手を尊重して考える

本時 ②

３つの議題について、生徒総会を行い、他者の意見を聞き、生徒一人ひとりが意見をもつ

生徒総会 2

⇒主体的に社会に参画する

ポイント1

学校生活の課題を「自分のこと」としてとらえる

学校は生徒たちにとって最も身近な「社会」であり、校則は最も身近な「ルール」の一つであるといえます。生徒自身が「なぜこのルールがあるのか」「どうすれば自分たちの学校生活をよりよくできるのか」といったことを見つめ直し、「自分たちで決めた（変えた）」という経験は、生徒たちにとって、将来「社会を創る（変える）ことができる」といった、主権者として社会に関わろうとする意識の涵養にもつながります。

Ⅲ　活動や授業の様子

①「生徒総会で出た意見について検討しよう」

○　本時の目標

第１回生徒総会で生徒から出た意見について、生徒会役員で協議し、今後の見通しをもつ。

○　本時の展開

過程	活動の流れ	ポイントになる学びのプロセス
導入	○本日の活動のねらいと話し合う議題について、教師の説明を聞く。 生徒総会で出た意見について、協議して、今後の見通しを持とう！	
展開Ⅰ「生徒総会を振り返って」	○生徒総会で出た意見について協議する。 ・生徒の振り返りに書かれた意見の理由について考え、生徒役員が、役員の立場としてだけでなく、一人の生徒としてそれぞれの考えを話し合う。 T：それぞれの意見の人たちが、なぜそう言っているのか。その背景を考えよう。 靴下の色については、いろいろな意見が出たけど、修正案②「白黒紺灰色」を支持する人が多かったのはどうしてだろう？ほかの意見もあるし、どう決めたらいいかな…。 クラスの人が、白1色は嫌だけど、自由すぎても困ると言っていたよ。多数決にすると、簡単に決まるけど、原案の「黒のみ」や修正案①「何色でも可」といった少数意見も大事にするべきだと思うんだよね。 そうだね。少数意見も大事にするべきだと僕も思う。「色が決まっていない方が、自分で判断して選択するから自律につながる」っていう考えをもっている人もいたけど、たしかにと思って納得できたな。 どうしたらいいのかな。どうやって決めたらいいかな。 修正案②「白黒紺灰色」を支持する人は、全学年で圧倒的に多いから、まずは、修正案②で、試行期間を設けて運用してみたらどうかな。 なるほど。試行期間は、みんなが納得するいい方法だね。全校生徒へ説明するときには、少数意見についても触れて、少数意見も大事にしていることが伝わるようにしようよ。	**課題について多面的・多角的に考える** いろいろな立場の考えや意見があることに気付けるようにします。
展開Ⅱ「今後にむけて」	○中央委員会の見通しについて話し合う。 ・中央委員会で大切にしたいことを考える。 ・中央委員会の目標や今後の予定を考え、見通しをもつ。	
まとめ	○次回の執行部会にむけて ・中央委員会までのスケジュールを確認し、役割分担の確認	**目指す子どもの姿・ねらい** 全校生徒の立場を考えながら、全校生徒の合意形成に向けて、具体的に実行に移そうとしている姿。

②「生徒総会に参加しよう」

ポイント2

○　本時の目標

「未来を創る校則をつくる」ために、生徒総会での話し合いを通して学校をよりよくする方法を考えたり表現したりすることができる。

○　本時の展開

過程	活動の流れ	ポイントになる学びのプロセス
導入	○議事運営委員会による開会宣言＆議事の流れについての確認。 生徒総会を通して、次年度に施行される「未来を創る校則」をつくろう	
展開 「靴下について」	○各班・各クラスで出た意見について話し合う。 ・各クラスでまとめた意見を発表する。 ○２つ以上の意見が出た場合は再度各クラスで話し合い、意見をまとめる。 ・再度、意見を発表する。 T：自分と異なる意見も大切にしながら、どうしたらよい学校になるか考えよう。 私たちのクラスでは、修正案②「白黒紺灰色」を支持します。理由としては、運動部の人は、汚れが目立たないし黒や紺や灰を選べるし、汚れが付かない人は、今までどおり白を選べていいと思います。 私たちのクラスでも修正案②「白黒紺灰色」を支持します。理由としては、原案「黒」だと、現行の規則で使用している白い靴下が使えなくなってしまうからです。また、試行期間を経てとったアンケートで、生徒も保護者も問題ないと回答している人が多いからです。 私たちの班では、修正案①「何色でも可」を支持します。自分で制服や状況に合う靴下の色を判断して履くことは、自分で物事を考えることになり、自律に繋がると考えるからです。決まっている色の靴下を判断なく、履くことは、思考が止まっていると言えると思います。 私たちのクラスでも修正案①「何色でも可」を支持する人がいましたが、制服には、ある程度の統一感が必要だという話でまとまりました。原案「黒」だと、現行の規則で使用している白い靴下が使えなくなってしまうため、修正案②「白黒紺灰色」を支持します。 ○採決をする。	**他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する** 他者の考えや立場を尊重しながら、自分の考えについて根拠をもって考えられるようにします。
まとめ	○①靴下の色については採決の内容を確認する。 ○②休み時間の過ごし方については方向性を示し、中央委員会にて詳細を決定する。 ○実施時期については中央委員会にて決定する。	自分自身を振り返る場面

ポイント2

生徒同士の対話を交えた生徒総会

生徒総会は、生徒同士の活発な意見交換が求められる場です。本実践では、生徒総会本番や、そこに向けた事前の学級討議や中央委員会の中で、生徒同士が議論する場面を設けるとともに、他の学級で話し合われた意見を全校で共有する場面を複数回設定しています。「課題について考え、議論する場面」と「他者の考えを聞く（知る）場面」というプロセスを繰り返すことで、自分たちの意見を再構築することにつながります。また、そのプロセスの中で、「個人の判断を重視」と「全体の規律を重視」のように異なる意見がある場合、双方の主張の理由や根拠をよく聞いたうえで判断・選択したり、合意形成を図っていく必要があります。

令和５年１月

○生徒会役員を中心とした中央委員会で、校則の改定に向けて話し合いながら、１月に校則が改定・施行された。

【改定項目】・靴下の色
・休み時間の過ごし方



３月

○卒業式に出席した卒業生から「式典に出席する生徒の靴下は、白のみとなっているが、普段の生活と同様の校則でいいのではないか」という意見が出される。



主体的に社会（学校）に参画する生徒が見られるようになった

４月～



○令和５年度は、校則の見直しをさらに進めていくが、他者の考えが多様で、自分の考えを再構成していくことがより難しい課題を準備し、多面的に考える力の育成を目指している。
例：上履きをなくす一足制、制服やジャージのデザイン変更など

○話し合いの方法や議長団の役割を見直し、建設的に話し合う力の育成を目指している。

Ⅳ　研究協議



１．研究協議のテーマ

「主体的に生徒総会に参加し、学校の課題を自分のこととして捉えて話し合いに参加することができていたか」

２．研究協議の成果と課題

成果

・生徒が「自分たちの力で校則を変えられる」ということを実感することができた。また、生徒ももちろんだが、教員間でも校則の見直しについて考える機会となった。
・今までの生徒総会では既定路線で終始していたが、議題に対して自分ごととしてとらえたため、生徒たちがそれぞれ前向きに考えながら議論することができた。社会に参画しようとする意識の涵養につながった取組となった。
・議長団が事前に各学級の意見を把握していたため、意見の重複を避けたり、または対立する意見を両方取り扱うように調整しながら議事を進行しており、合意形成のプロセスを意識した取組となった。

課題

・生徒総会の様な全校生徒が集まる場で、少数派の生徒が意見を表出することは難しかったと考えられる。個の意見が表明できる場の設定が必要である。また、採決の方法についても少数意見の尊重を意識した上で決めていくなど、合意形成のプロセスを丁寧に構築する必要がある。
・生徒がさらに主体性をもって生徒総会に参加できるような手立てをどのように講じていくか、教員の関わり方や生徒に任せる場面について、より検討を深めるとともに、生徒が討論の経験を積んでいけるよう、定期的に討論の機会を設定する必要がある。